

全体総括

計画期間；平成24年11月～平成29年3月（4年5月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

日南市中心市街地活性化基本計画（油津地区）では、基本方針として「1. 誰もが楽しめるまちの形成」「2. 便利で安心なまちの形成」「3. 新たな来街を促す観光地の形成」を掲げ、51事業を計画した。

特に、商店街の再生においては、テナントミックスサポート事業を導入し、全国公募により採用した木藤亮太氏を中心に、空き店舗対策に取り組んだ。結果、目標にした20店舗誘致を上回る28店舗が新規参入したことによって、商店街の通行量は、本事業を開始する平成23年度の1,661人から、平成28年度は2,388人と大幅に増加するなど賑わいを増している。

また、28店舗の中には、商店街とは業務形態が異なるIT企業や小規模保育施設等が含まれ、雇用の創出による人口流出の歯止めにもなっている。

更に、大型空き店舗跡・空き地に、優良建築物等整備事業を活用した複合機能ビルと立体駐車場が整備され、子育て支援センターや市民活動支援センター、企業オフィスがテナントとして入るなど、環境・景観面の改善、交通アクセスの利便性の向上にもつながっている。

一方、商店街エリアとは別の港エリアにおいては、油津港内に飲食店を整備して集客を図り、隣接する堀川運河や堀川夢ひろば、赤レンガ館といった観光資源への回遊を図る「観光地の形成」に努めたが、飲食店の整備等までには至らなかった。このようなことから、港エリアにおける観光促進といった課題が残る形となったが、市観光協会や観光案内所が港エリアに移転・整備されたことから、今後、市内外からの誘客に努める施策を講じていくことになる。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

概ね順調に進捗・完了した       順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

かなり活性化が図られた  
 若干の活性化が図られた  
 活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）  
 活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由（2.における選択肢の理由）

計画した51事業については、46事業が計画期間内に完了し、5事業が未着手であったことから、概ね順調に進捗・完了したといえる。

日南市を取り巻く現状については、少子高齢化や人口流出が顕著に見られ、人口については、事業開始前である平成23年度の人口58,612人に対し、平成28年度は55,133人となっており、減少傾向にあり、同様に高齢化率は増加傾向にある。

中心市街地（油津地区）における定住人口についても、平成23年度3,281人に対し平成28年度は、3,079人となっており、同様に減少している。

このように、日南市全体と中心市街地（油津地区）ともに、人口が減少する中において、生産年齢人口の減少率については、変化が見られる。

生産年齢人口を平成 24 年度は「1」とした場合、平成 26 年度までは日南市全体と中心市街地(油津地区)ともに、約 0.05%の減少となっている。しかし、平成 26 年度を境に、中心市街地(油津地区)の方が、日南市全体に比べ、緩やかに減少している。平成 28 年度末には、日南市全体が約 0.12%の減少に対し中心市街地(油津地区)は約 0.11%となっており、他の地区に比べ生産年齢人口の減少の幅が狭くなっている。これは、子育て世帯を中心市街地(油津地区)に誘導する補助事業の効果が少なからず現れていると考える。

また、通行量については、基準値 3,599 人・目標数値 4,100 人に対し、平成 28 年 8 月の調査時点では、3,914 人となり、基準値を超える増加であったが、目標値には達成していない結果であった。要因としては、商店街の活気を取り戻したが、調査段階で、市子育て支援センターをはじめとする一部の施設(店舗)が開館していなかった(平成 29 年 4 月開館)ためと考える。なお、平成 29 年 3 月の通行量調査では、4,896 人と目標を大きく超えている結果も出ている。

計画期間中に目標値は達成できなかったが、まちづくりの過程において、市民参画の動きも生まれている。テナントミックスサポートマネージャー木藤氏と市民との出資により、商店街の活性化とまちづくりに寄与する法人(株式会社 油津応援団)が設立され、幅広い世代が集う多世代交流モール(油津yotten)の整備をはじめ、途絶えていた「土曜夜市」の復活など各種イベント等の開催に取り組むことで人が集まり、魅力ある商店街の空間づくりを形成したことが、商店街における通行量の増加につながっている。

更に、商店街とは異なる業種であるIT企業、小規模保育施設、宿泊施設等の誘致が進み、全国的にも先駆的な取り組みとして高く評価されたことから、メディアの露出度や県内外の視察数も大幅に増加している。

また、定期的に油津港へ寄港する海外の大型クルーズ船の外国人観光客、更に、広島東洋カープキャンプ時における県内外からのファンを中心市街地に誘導することが出来き、老若男女問わず多種多様な人が往来するようになり、まちの雰囲気以前と変わってきている。

一方、港エリアにおける観光地形成が課題となっている中、地域住民が主体となって、本エリアを中心に堀川運河周辺を散策する「まちあるきイベント」を定期的に開催する動きが始まっていることから、観光促進につながる兆しも見えている。

#### 4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

##### 【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

##### 【詳細を記載】

日南市中心市街地活性化協議会としては、予定していた事業が概ね順調に実施されたと考えている。結果、商店街の再生や複合機能ビルの完成によって通行量が増加したことを考慮すると、本事業実施前に比べ若干の活性化が図られたと評価できる。

しかしながら通行量・定住人口については、目標値を達成していないことから、更なる商店街を含めた中心市街地への集客、複合機能ビル内の居住の促進に努めることが重要である。

そのため、整備された施設と商店街が連携して、集客及び施設利用促進を図る広報活動が必要であると提言する。

また、一定の活性化が図られ、若い世代の通行が見受けられるようになったが、一方では、高齢者が、整備された市民活動支援センターや多世代交流モール(油津yotten)に集うことで、生きがいづくりを見出すような機会づくりや、中心市街地を訪れる買い物客・観光客が、長時間滞在にできる仕組みづくりについても検討する必要があると考える。

更に、本事業を進めてきた過程において、市民によるまちづくり法人が設立され、更に、「まちあるきイベント」が自発的に生まれてきた。今後も市民活動が活発になるためには、引き続き、市民に対してまちづくりに関心を持っていただく機運を高めることが必要である。

今回、中心市街地活性化事業が終了したが、日南市中心市街地活性化協議会としては存続し、引き続き官民協働によるまちづくりに寄与していく。

## 5. 市民意識の変化

### 【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

### 【詳細を記載】

中心市街地活性化事業の成果について、次のとおり市民アンケートを実施した。

実施日：平成28年12月

対象者：油津地区住民・300名

回答数：69名

#### （1）子育て支援センター、市民活動支援センター等の整備について

評価	回答
満足	14.5%
やや満足	27.5%
どちらでもない	33.3%
やや不満	5.8%
不満	1.4%
無回答	17.4%

#### （2）商店街の再生（テナントミックスサポート事業）について

評価	平成25年度 回答(A)	平成28年度 回答(B)	比較(B-A)
評価する	16.9%	20.3%	3.4%
ある程度評価する	32.4%	43.5%	11.1%
わからない	31.0%	20.3%	-10.7%
あまり評価しない	14.1%	8.7%	-5.4%
評価しない	5.6%	1.4%	-4.2%
無回答		5.8%	5.8%

平成26年1月に同様の調査を実施。

#### （3）中心市街地活性化事業の実施前との比較について

評価	回答
にぎやかになったと感じる	29.0%
変わらない	42.0%
活気がなくなったと感じる	2.9%
わからない	10.1%
無回答	16.0%

中心市街地活性化事業における施設整備や商店街の再生について、アンケート調査したところ、上記のとおりとなっている。

特に、商店街の再生事業は、前回と同様の調査した結果を比較すると全般的に評価を得られており、更に、まちの賑わいについて30%の方がまちの変化を感じている結果となっている。

## 6. 今後の取組

中心市街地活性化事業を通して、商店街の再生が高く評価され、IT企業等の進出による雇用の創出や市民によるまちづくり参画への意欲が生まれているが、目標値と定めた「通行量」と「定住人口」の結果は、達成するに至っておらず、市民アンケート結果を見ても、活性化に向けた一層の取り組みが必要と考える。

今後は、計画の成果を生かしながら官民一体となった取り組みを推進するため、「油津地区エリアマネジメント事業」に取り組んでいく。

具体的には、市子育て支援センターの整備、大型外国クルーズ船の寄航によるインバウンド効果、市民活動による「まち歩きイベント」などの新しいストックを互いに連携・連動させることによる賑わいの創出を行う。また、課題となっている港エリアにおける観光地の形成を推進することで、堀川運河周辺の回遊性の向上を図っていく。

再生された商店街を維持してためにも、既存店舗の魅力発信や新規出店者へのフォローアップの支援を行っていく。

### (参考)

#### 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
来て良かった、 また来たいまち	歩行者・自転車 通行量(人/日)	3,599 (H23)	4,100 (H28)	3,914	H28.8	B
住みたい、住み続け たいまち	定住人口(人)	3,281 (H23)	3,400 (H28)	3,079	H28.10	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

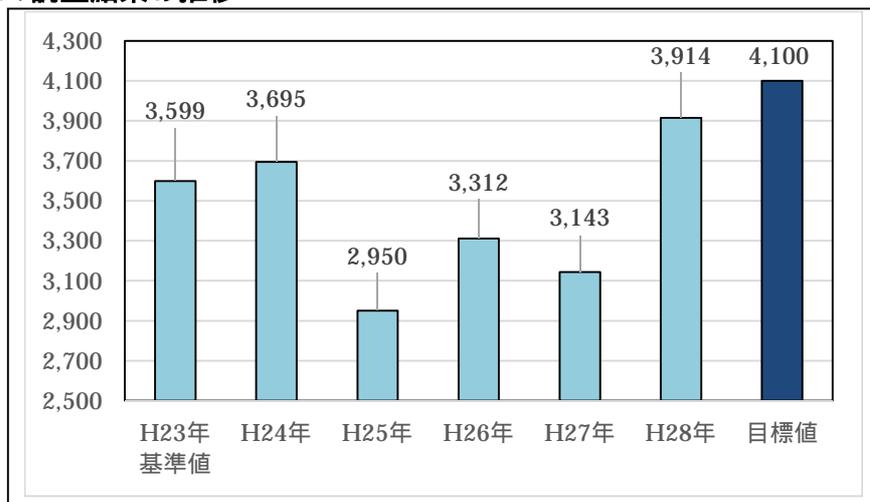
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「1日あたりの歩行者・自転車通行量」 目標設定の考え方基本計画 P151～P159 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位:人/日)
H23	3,599 (基準年値)
H24	3,695
H25	2,950
H26	3,312
H27	3,143
H28	3,914
H28	4,100 (目標)

調査方法：歩行者・自転車通行量調査  
 調査月：8月（休日と平日）  
 調査主体：日南市  
 調査対象：港周辺、商店街周辺の14箇所

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業（日南まちづくり株式会社）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業) 平成25年度から平成28年度まで
事業開始・完了時期	平成25年度から平成28年度まで[済]
事業概要	土地の高度利用を図り、複数の機能を併せ持つ施設を整備することで、中心市街地の新たな魅力を形成する事業。
目標値・最新値	目標値:232人 最新値:187人
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	当初、店舗703㎡を計画していたが、設計変更等により、店舗面積を縮小した。そのため、主要な来場者は、テナントとして入居する子育て支援センターや市市民活動支援センターの利用者であり、その総計が、187人であることから目標値には達していない。
計画終了後の状況(事業効果)	市施設をはじめ、店舗、クリニックモール、高齢者向け住宅、分譲マンション、企業オフィスがテナントとして入居することで、魅力ある空間が形成され、様々な人が往来することになる。
優良建築物等整備業の今後について	実施済み

・子育て支援施設事業（日南市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 平成 27 年度から平成 28 年度まで
事業開始・完了時期	平成 27 年度から平成 28 年度まで【済】
事業概要	安全安心な子育て環境を整備し、まちの魅力を高める。 複合機能ビル1階に整備
目標値・最新値	目標値:219 人 最新値:167 人
達成状況	最新調査日を実施した平成 28 年 8 月時点では、本事業は工事中であったため正確な数値は測量できなかった。 しかし、開館後の利用者数が、1日平均 167 人であることから目標値に達していない。
達成した(出来なかった)理由	完成直後は、市内在住者の利用者がほとんどである。本施設は、市内外から呼び込む施設であることから幅広い広報周知不足と考える。
計画終了後の状況(事業効果)	平成 29 年 4 月に開館し、毎日平均 167 人の利用者がある。 複合機能ビルへ往来する人の半分以上を占めている。
子育て支援施設備業の今後について	実施済み

・観光拠点施設整備事業（日南市）

支援措置名及び支援期間	なし -
事業開始・完了時期	【未実施】
事業概要	大型バスが利用できるレストラン及び物産販売、観光情報発信施設を整備し、利用者を堀川運河周辺の観光名所等に回遊させる事業
目標値・最新値	目標値:1,036 人 最新値: 0 人
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	観光拠点施設は、レストランや物産販売によって県内外の観光客を呼び込む施設を計画していたが、費用対効果及び立地予定地へ交通安全対策が問題となり計画を実施しなかったため、集客を図ることが出来なかった。
計画終了後の状況(事業効果)	未実施のため事業効果はない。
観光拠点施設整備事業の今後について	現在は、市街地内の空き店舗に市観光・スポーツ課と市観光協会を移転し、観光案内所機能を活かした堀川運河及び港エリアの観光案内を促進、更に、油津港に寄港する大型外国クルーズ船の観光客のインフォメーションセンターとして機能させている。 今後は、施設の果たす機能を検証し、観光拠点施設の役割を果たせるよう、物販機能など、施設の充実に努める。

・多世代交流モール整備事業（株式会社 油津応援団）

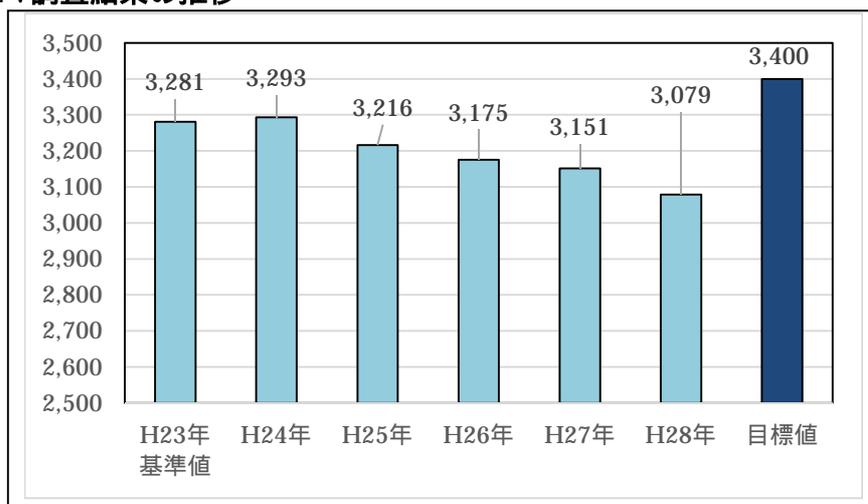
支援措置名及び支援期間	商店街まちづくり事業 平成 26 年度から平成 27 年度まで
事業開始・完了時期	平成 26 年度から平成 27 年度まで〔済〕
事業概要	高齢者と子育て世代、子どもたちの世代間交流ができる環境づくりと屋台村（飲食店）の整備による、商店街の魅力を高める事業。
目標値・最新値	目標値：632 人 最新値：865 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	平成 27 年 11 月に多世代交流モール整備事業が完成し、小学生などの子どもが遊べるスペースやカーブ館（広島カーブに関する資料の展示）などのコミュニティースペースや飲食店等が整備されたことにより、魅力ある商店街の形成につながり目標を大きく超える通行量となったと考える。
計画終了後の状況（事業効果）	施設内には会議やイベント、習い事教室として利用できるスペースがあることから、買い物客に加えて高齢者や子ども、若者など幅広い世代の通行が増えるようになった。
多世代交流モール整備事業の今後について	実施済み

・空き店舗対策事業（日南市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成 25 年度から平成 28 年度まで
事業開始・完了時期	平成 25 年度から平成 28 年度まで〔済〕
事業概要	新たな店舗が出店しやすい環境を整備することで、店舗の立地を誘導し、店舗の連続性を図るとともに、地域商業力の向上を図る。
目標値・最新値	目標値：632 人 最新値：865 人
達成状況	達成
達成した（出来なかった）理由	多世代交流モールの飲食店等の 12 店舗が同事業を活用したことで、新たな消費者の誘導につながった。また、同施設に隣接する 11 店舗においても、同事業を活用したことで商店街店舗の連続性が図られ通行量の増加に至っている。
計画終了後の状況（事業効果）	同事業により、出店しやすい環境づくりに努めたことで、出店した店舗等 28 店舗のうち、23 店舗が同事業を活用した。結果、商店街の連続性が図られ、空き店舗の解消にもなっている。
空き店舗対策事業の今後について	本事業については終了。

「定住人口」 目標設定の考え方基本計画 P151～P159 参照

### 1. 調査結果の推移



年	(単位:人/日)
H23	3,281 (基準年値)
H24	3,293
H25	3,216
H26	3,175
H27	3,151
H28	3,079
H28	3,400 (目標)

調査方法：定住人口調査

調査月：10月

調査主体：日南市

調査対象：中心市街地区域内の人口調査

### 2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・岩崎3丁目東地区優良建築物等整備事業（ビル居住部分）（日南まちづくり株式会社）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業) 平成25年度から平成28年度まで
事業開始・完了時期	平成25年度から平成28年度まで[済]
事業概要	土地の高度利用を図り、複数の機能を併せ持つ施設を整備することで、中心市街地の新たな魅力を形成する。 また、分譲住宅や高齢者向け住宅を整備することで定住促進に努める。
目標値・最新値	目標値:83人 最新値:12人
達成状況	達成
達成した(出来なかった)理由	最新値基準日には、分譲マンション及び高齢者向け住宅が完成していなかったため。
計画終了後の状況(事業効果)	平成28年12月に分譲マンション17区画が完成し、平成29年5月現在で、5区画12人が居住済みである。後、全区画が売却されることで、45人が居住予定である。 なお、高齢者向け住宅24部屋については、整備中であるが、完成後は、38人が居住の予定である。
優良建築物等整備業(居住)の今後について	実施済み。

・子育て世帯定住促進事業（日南市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業) 平成26年度から平成28年度まで
事業開始・完了時期	平成26年度から平成28年度まで[済]

事業概要	中心市街地区域内に若年層の定住を促進するため、子育て世帯に対し家賃を補助する事業。
目標値・最新値	目標値:83人 最新値:27人
達成状況	未達成
達成した(出来なかった)理由	油津地区において子育て世帯(若者世帯)が好むような、比較的新しい賃貸物件が少なかったことが、要因と考える。
計画終了後の状況(事業効果)	本事業における数値目標は未達成であり、定住人口も減少している。しかしながら、本事業を開始した平成26年度を境に、油津地区における若年層の減少率が、日南市全体に比べ穏やかに減少している。
子育て世帯優良建築物等整備業の今後について	実施済み。

### 3.今後について

本事業により、商店街の再生(商店街エリア)、観光地の形成(港エリア)、定住人口の促進に努めてきたが、商店街の再生については、テナントミックスサポート事業や多世代モール整備事業、岩崎3丁目優良建築物等整備事業により、IT企業等をはじめとした民間事業者や飲食店等の誘致が実現し、空き店舗・空き地解消による魅力ある空間づくりができた。

結果的には、商店街における通行量は、本事業を開始する前に比べ、1.5倍程度に増加した。

しかしながら、中心市街地区域内全体の1日の通行量については、基準値は超えたが目標値は達成していない状況にあることから、今後は、港エリアにおける観光資源等を活かした集客事業等について、引き続き検討していくことが必要である。

今後は、「油津地区エリアマネジメント事業」に取り組むことで、商店街エリアにおける新規出店者の支援をはじめとする事業効果の維持、更に、課題として残っている観光地の形成による回遊性の向上に取り組んでいくとともに、その事業効果を検証するため目標数値の調査を継続的に実施していく。